

サガハイマツト通信

VOL.8

(平成26年10月号)

2014年度グッドデザイン賞を受賞



GOOD DESIGN
AWARD 2014



2014年度グッドデザイン賞を受賞したサガハイマツト(詳しくは裏表紙をご覧ください)

次世代型治療装置 3年後めどに整備



公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団
理事長 十時 忠秀

サガハイマツトは、昨年8月27日に治療を開始してから、おかげさまで1年を迎えました。8月末時点で治療を受けられた患者さんは333人となり、治療開始1年目の目標患者数である200人を大幅に超える極めて順調な滑り出しになりました。今後も患者数の増加が見込まれることから、現在稼働している2つの治療室に加えて、3室目を前倒して整備することにしました。3年後の平成29年4月からの稼働をめどに、次世代型のスキャンニング照射装置を導入する予定です。これからも着実な治療実績を積み重ね、サガハイマツトへの信頼をさらに高めていきたいと考えています。引き続き、サガハイマツトへのご支援、ご協力をお願いします。



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

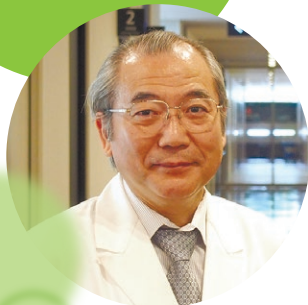
サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812

(受付時間: 平日の9時~12時, 13時~17時)

メール saga-himat@saga-himat.jp

工藤 祥センター長
治療開始から
1年間で
振り返って



サガハイマツト

九州国際重粒子線がん治療センター「サガハイマツト」は昨年8月の治療開始から1年を迎えました。工藤 祥センター長がこの1年の成果と課題などを振り返ります。

目標の200人大きく上回る

▼この1年間の総括

昨年8月27日に治療を始め、今年8月末時点での治療患者数は333人です。最初の1年は200人を目標にしていたので、予想以上の達成率です。準備がスムーズに進んだことや、装置類のトラブルがなかったことが要因と考えています。

重粒子線の照射回数のがんの種類によって異なりますが、最大で16回です。途中で予期せず長期間間隔をあけると、治療効果に大きな影響が出ます。そのようなことを避けるため、加速器などのメンテナンスに力を入れました。医療スタッフはもちろんですが、装置類を扱うスタッフにも感謝しています。

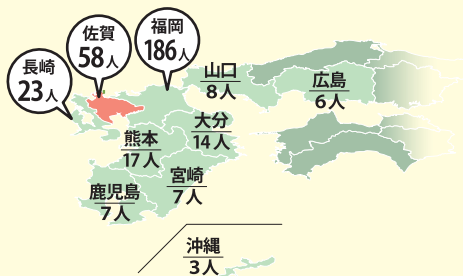
▼治療対象部位の拡大

開設前に大学病院などの医師と連携し、泌尿器、頭頸部、骨軟部、肺、肝臓、膵臓、下部消化管の7つの臨床検討班を設けました。この臨床検討班による客観的な意見、助言を受けながら最初は前立腺がん、昨年12月から骨軟部と頭頸部、今年3月から肺や肝臓、膵臓などの治療を始めました。今後は、上部消化管と婦人科系がんの臨床検討班を設けて、これらのがんにも対

データで見るサガハイマツト

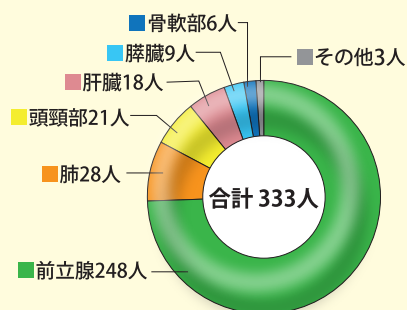
※2014年8月31日現在

地域別 患者数、福岡県が56%



都道府県別に見ると、福岡県が186人で最も多く、全体の約56%。次いで、佐賀県58人(17%)、長崎県23人(7%)、熊本県17人(5%)、大分県14人(4%)、宮崎県7人、鹿児島県7人(ともに2%)、沖縄県3人(1%)、山口県8人(2%)となっています。九州、沖縄、山口の9県で97%を占めています。

部位別 前立腺が全体の4分の3



部位別では、前立腺がんが248人で全体の4分の3を占めました。最初に治療を開始したのが前立腺がんだったことが要因です。2番目に多いのが肺の28人で、全体の約8%。次いで頭頸部21人、肝臓18人、膵臓9人、骨軟部6人、その他3人となっています。

1年間で333人治療



応できるよう準備を進めていく予定です。また、先進医療も予定より1カ月早く承認を受けることができ、本当に順調だったと感じています。

▼治療開始までの期間

現在の医療スタッフは24人で、開設時より8人増えています。また、2部屋目の治療室も4月から稼働し、1日に治療できる人数も増えてきました。

治療対象となるがんが広がったことで関心が高まり、1カ月に約300件の問い合わせがあります。連携医療機関からの紹介も増え、これから治療を始める予約患者さんもたくさんいらっしゃいますが、そのうち約8割は重粒子線治療前にホルモン療法を行ったほうがよい前立腺がんの患者さんで、ホルモン療法を受けながら重粒子線治療に備えている方々です。

一方で、早期治療が必要な患者さんは待たせないように努力しています。

▼具体的な治療成果はこれから

重粒子線はがん病巣の増殖を抑えることで治療します。その結果、がん病巣がなくなる人もいれば、線維組織となって固まる人もいます。CTやMRIなどの画像でそれが分かるには、一般的に数カ月から数年はかかります。また、治療成果はその部位にがんが再発しない「局所制御率」が一つの指標となりますが、これも3年から5年が一つの目安です。現時点で言えるのは「副作用(初期)の発生は少なく、重粒子線治

療のさきがけである放射線医学総合研究所(千葉市)の実績に比べても遜色はない」ということです。

もちろん、治療後の患者さんを見ると、がんの進行度合いを測る腫瘍マーカーの数値は確実に落ちています。今後は治療後の経過をデータで蓄積し、公表していきたいと考えています。

▼2年目の抱負

重粒子線治療の対象となるのは局所にとどまったがんで、当たり前ですが早期ほど治りやすいものです。望みを託して来られる方もいらっしゃると思いますが、現実には重粒子線で治療できないケースもあります。そのため、がんはやはり、早期発見・早期治療が重要であるということや、サガハイマツではどのようながんが治療対象となるかということなどについての広報に力を入れていきます。また、重粒子線治療が公的医療保険の対象となるように努力していきます。特に、骨軟部腫瘍など重粒子線で高い効果が期待されるものは可能性が高いと思います。サガハイマツとしても局所制御率、生存率などのデータを蓄え、保険適用に貢献したいと考えています。

それから、次世代型のスキャニング照射装置を導入する3室目の治療室も、3年後をめどに稼働できるよう準備を始めました。また、九州国際重粒子線がん治療センターの名称どおり、外国からの患者さんをどう受け入れるかも考えていきたいですね。

サガハイマツトが グッドデザイン賞

九州国際重粒子線がん治療センターが2014年度「グッドデザイン賞」(公益財団法人日本デザイン振興会主催、応募カテゴリー:C2・1公共用の空間・建築・施設)を受賞しました。

「患者の心と体にやさしいがん治療センター」をコンセプトに、心にゆとりとやすらぎをもたらすホスピタリティあふれる空間を実現した結果、審査委員から「内部機能の合理化・ユーザーや周辺環境へのホスピタリティ双方を実現し、応募自体も意義がある」と高く評価されました。

今回の受賞を機に、スタッフ一同、さらに重粒子線がん治療施設の普及と理解の向上に努めていきます。

なお、10月31日から東京ミッドタウンで開催される受賞展「グッドデザインエキシビション2014(G展)」会場で、本年度受賞作として紹介されます。

一般公開に1200人

サガハイマツトの一般公開を7月19日に実施しました。県内外から約1200人が訪れ、普段は入ることのできない治療室や直径20mの加速器などを熱心に見学しました。

一般公開は昨年5月に続き2回目。患者への身体的負担が少ない重粒子線治療への関心は高く、参加者はそれぞれの説明箇所、医療スタッフの説明に熱心に聞き入っていました。当日は来場者から多くの寄附が寄せられました。ありがとうございました。



スタッフ紹介

医学物理室長 **金澤 光隆**

【略歴】 かなざわ・みつたか ■1952年、秋田市生まれ。東京大学原子核研究所を経て、1988年に放射線医学総合研究所へ。2011年4月から佐賀国際重粒子線がん治療財団に勤務。理学博士。



経験活かし安定した運転実現

サガハイマツトに来る前は千葉の放射線医学総合研究所で重粒子線がん治療装置(HIMAC)の設計及び建設に携わってきました。その後、治療装置を普及させるために炭素イオン専用の加速器の小型化に向けた開発を行っていましたが、一段落したところでサガハイマツト建設の話があり、こちらで勤務することになりました。この治療装置は多くの機器から出来ているため、これまでの経験を活かして安定した運転を実現し、整備が始まっている3室目のスキャニング照射装置も是非良いものにしたいと考えています。

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん治療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくをお願いします。

なお、当法人へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当法人までお問い合わせください。

サガハイマツト通信 vol.8

(平成26年10月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当) 落合

住所 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町415番地

TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905

HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>